

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900342		
法人名	特定非営利活動法人 咲風会		
事業所名	グループホーム空		
所在地	徳島県三好市池田町白地ウマバ456番地		
自己評価作成日	令和2年1月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特にありません。
----------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地から離れた山間集落に位置し、吉野川や山石を一つひとつ積み上げた石垣、古い民家、畑などの自然豊かな景観を楽しむことができる。四季の移り変わりを感じられる環境の中で、利用者一人ひとりが、その人らしい生活を送ることができるよう、支援に取り組んでいる。管理者や職員、利用者、家族等との信頼関係が良好で、家庭的な雰囲気を感じることができる。家族等の要望による、看取り支援にも真摯に取り組むなど、利用者や家族等の意向や希望を大切に捉えている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	特定非営利活動法人 咲風会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	概ね。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。職員は、理念に基づいて、利用者が地域の中で、尊厳やプライバシーを保ちつつ、生活することができるよう、支援に取り組んでいる。	
2	(2)	徳島県三好市池田町白地ウマバ456番地 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	概ね。	毎年、事業所では、地区の秋祭りの際に神輿の訪問があり、利用者と地域が繋がる行事のひとつとなっている。また、年3回ほど、地元婦人会が、手作りのお寿司を届けてくれることもあるが、地域とのつきあいは、十分とは言えない。	今後は、利用者の高齢化・重度化にともなう地域の方との交流する機会が減少していることも踏まえつつ、地域の認知症ケアの拠点としての機能を発揮できるよう、取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分な実績あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この文章の意味が不明。	事業所では、運営推進会議について、地域の総会との共同により開催することで、地域住民などの参加を得ることができるようにしている。利用者や地域等の高齢化などにもない、年2回の開催となっている。	今後は、地域の各種会合などを、より積極的に活用し、運営推進会議を開催することに期待したい。会議に多様な出席者を得ることで、事業所の認知度をあげるとともに、入居者確保にもつなげることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	概ね。	管理者は、必要に応じて、市の担当者と連絡を取るようになっているが、定期的な報告や連絡・相談などは、十分に行っていない。	今後は、制度変更時の手続きや利用者の状況などについて、市の担当者と情報共有を行うことで、事業所の各課題に取り組むことが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね。	事業所では、全職員が、身体拘束にあたる具体的な行為などを正しく理解し、支援に取り組んでいる。日中は玄関を開放したり、日ごろの言葉遣いに配慮したりするなど、利用者の立場にたって支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	倫理教育の問題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	時々。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業の基本と心得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この文章の意味が不明。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や意向等を聞き取り、運営面に反映している。家族等については、面会などの機会が減少しているため、十分に聞き取りを行うまでには至っていない。	今後は、家族等の意見や意向などを確認することができるよう、定期的な連絡を入れるなど、情報共有を図る機会を設けることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当然のこと。	管理者は、日ごろから、職員とのコミュニケーションを大切にしている。定期的な面談を実施して、意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見については、働きやすい環境となるよう、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員優遇のシステムになっている(制度上) (処遇改善・・・)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の心身の健康が第一		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	狭い地域なので職員間の距離は近い。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係がなければ、ホーム生活はできません。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族問題には立入らない。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いいえ。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	はい。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	はい。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そこまで出来ない。	事業所では、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との関係について、把握するよう努めている。重度化や高齢化によって、外出等が難しいことを踏まえつつ、提供できる支援について検討している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	十人十色。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やっていません。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難しい。できていない。	職員は、日ごろの利用者とかかわりの中で、一人ひとりの思いや意向などの把握に努めている。表情や仕草などを踏まえて柔軟に対応するなど、利用者の過ごしやすい環境に配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	概ね過去の状況は把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これが仕事です。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだ未熟です。	事業所では、利用者一人ひとりの生活習慣やこだわりなどを尊重し、介護計画を作成している。よりよい暮らしの実戦に向けて、必要な支援について、本人本意に検討しているが、定期的な見直しを実施するまでには至っていない。	今後は、利用者の心身の状況の変化などを踏まえて、3か月に1回モニタリングを実施するなどして、現況にそった支援に取り組まれることに期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほぼ毎日の仕事です。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化とは何？			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	はい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当然のこと。	月2回、事業所では、利用者全員を対象として、協力医療機関の往診を実施している。専門科を受診する際も、事業所が送迎や動向支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日実践している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	はい。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	16年間やってきました。	事業所では、重度化や終末期における指針について、利用者や家族等に説明している。一人ひとりの尊厳を大切に捉え、意向や希望を確認している。心身の状況の変化に応じて、協力医療機関等と連携を図りながら、終末期の支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同上			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同上	事業所では、毎月、利用者とともに、避難訓練を実施している。また、職員は、地区の総合防災訓練にも参加して、地域との協力体制を築いている。災害時の備蓄についても準備ができているが、定期的に点検等を行うまでには至っていない。	今後は、消火設備や避難経路、保管している非常用食料、物品などについて、定期的な点検が行われることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同上		職員は、日ごろの支援の中で、利用者一人ひとりに対して敬意をはらうよう心がけている。利用者のプライバシーを損ねることがないように、さりげない声かけや言葉かけを行うなど、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	はい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	はい。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いいえ。		食事は、手作りのものを提供している。季節の野菜や旬の食材を取り入れるなど、時期ごとに応じた献立作りを行っている。利用者一人ひとりにあわせて、おかゆや刻み食など食べやすい形で提供し、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	はい。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	はい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	はい。	事業所では、利用者ができる限りトイレで排泄することができるよう、支援に取り組んでいる。羞恥心に配慮した声かけを行ったり、個別の状況にあわせてトイレまでの歩行支援を行ったりするなど、本人の心身の状況に寄りそって支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	はい。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24時間対応。	事業所では、毎日、入浴支援に取り組んでいる。入浴は、起床後に行っているが、利用者の心身の状況に応じて、就寝前のシャワー浴を行うなど、一人ひとりの状況に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	はい。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	はい。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	はい。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いいえ。	事業所では、日課や行事計画を作成しているが、利用者の重度化や高齢化にともない、計画どおりに実施することが困難な状況となっている。一人ひとりの心身の状況に配慮しつつ、短時間でも外気に触れることができるよう、支援している。	今後も、利用者一人ひとりの状況等を踏まえつつ、車いすなどの補助具を使用するなど、重度化などの現状にあわせた外出支援の工夫について、引き続き協議を行うことに期待したい。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	はい。	共用空間や居室は、木材を使用し、ぬくもりを感じることができる。掃除が行き届き、清潔感を保っている。廊下やトイレなどの動線に配慮して、利用者の移動に支障がないよう、整理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	はい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	はい。	居室には、利用者と相談しつつ、テレビやベッド、机、椅子などを、使いやすい位置に配置している。快適に過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老人心理はとても難しい。生きる意欲がなくなった時が寿命。		